

§ 7.3 部分積分法

関数 f の導関数 f' 及び関数 g は連続であるとし、 $\int g(x)dx = G(x) + C$ (C は積分定数) とします。定理 6.5.2 より

$$\frac{d}{dx}G(x) = \frac{d}{dx}\{\int g(x)dx - C\} = \frac{d}{dx}\{\int g(x)dx\} = g(x).$$

関数の積の微分公式 (定理 3.3.1) より、

$$\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} = \frac{d}{dx}f(x) \cdot G(x) + f(x) \frac{d}{dx}G(x) = f'(x)G(x) + f(x)g(x).$$

従って、定理 6.7 より、

$$\begin{aligned} \int \left[\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} \right] dx &= \int \{f'(x)G(x) + f(x)g(x)\} dx \\ &= \int f'(x)G(x)dx + \int f(x)g(x)dx. \end{aligned}$$

この等式の左辺は定理 6.5.3 より $\int \left[\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} \right] dx = f(x)G(x) + D$ (D は積分定数) ですから、

$$\begin{aligned} f(x)G(x) + D &= \int f(x)g(x)dx + \int f'(x)G(x)dx, \\ \int f(x)g(x)dx &= f(x)G(x) - \int f'(x)G(x)dx + D, \end{aligned}$$

この等式の右辺の積分定数 D を不定積分の式 $\int f'(x)G(x)dx$ に含めると、

$$\int f(x)g(x)dx = f(x)G(x) - \int f'(x)G(x)dx.$$

こうして次のことが分かります： $\int g(x)dx = G(x) + C$ (C は積分定数) とすると $\int f(x)g(x)dx = f(x)G(x) - \int f'(x)G(x)dx$. ここで、 $\int g(x)dx = G(x) + C$ における積分定数 C は、以後の計算に現れないので省略してもかまいません。

定理 (不定積分の部分積分法) 関数 f, g, G について、 f の導関数 f' 及び関数 g が連続であるとき、

$$\int g(x)dx = G(x) \text{ とすると } \int f(x)g(x)dx = f(x)G(x) - \int f'(x)G(x)dx ;$$

ここで不定積分 $\int g(x)dx = G(x)$ の計算では積分定数を略してよい。

この公式を用いる積分計算法を部分積分法といいます。公式の成り立ちを覚えて下さい：関数 f の導関数 f' 及び関数 g が連続であるとき、 $g(x)$ の不定積分 $\int g(x)dx = G(x)$ に対して、

$$\int \boxed{f(x)} \boxed{g(x)} dx = \boxed{f(x)} \boxed{G(x)} - \int \boxed{f'(x)} \boxed{G(x)} dx.$$

そのまま 微分する
積分する そのまま

例題 不定積分 $\int x \cos x dx$ を計算する。更にその結果を用いて不定積分 $\int x^2 \sin x dx$ を計算する。

【解説】 積分定数を略すと $\int \cos x dx = \sin x$, また $\frac{d}{dx}x = 1$ なので、部分積分法の公式に当てはめると、

$$\int x \cos x dx = x \sin x - \int 1 \sin x dx = x \sin x - \int \sin x dx$$

$$= x \sin x + \cos x + C_1,$$

ここで C_1 は積分定数である。更にこの結果を用いて $\int x^2 \sin x dx$ を計算する。積分定数を略すと $\int \sin x dx = -\cos x$, また $\frac{d}{dx}x^2 = 2x$ なので、部分積分法の公式に当てはめると、

$$\int x^2 \sin x dx = x^2(-\cos x) - \int 2x(-\cos x) dx = -x^2 \cos x + 2 \int x \cos x dx$$

$$= -x^2 \cos x + 2(x \sin x + \cos x) + C_2$$

$$= 2x \sin x + (2 - x^2) \cos x + C_2,$$

ここで C_2 は積分定数である。 終

問題 7.3.1 不定積分 $\int x \sin x dx$ を計算しなさい。更にその結果を用いて不定積分 $\int x^2 \cos x dx$ を計算しなさい。

問題 7.3.2 不定積分 $\int x e^x dx$ を計算しなさい。更にその結果を用いて不定積分 $\int x^2 e^x dx$ を計算しなさい。

関数 f は微分可能で更に導関数 f' は連続であるとし、不定積分 $\int f(x)dx$ を計算するために、 $f(x) = f(x) \cdot 1$ と考えて部分積分法の公式を適用します：積分定数を略すと $\int 1 dx = x$ ですから、

$$\int f(x)dx = \int f(x)1 dx = f(x)x - \int f'(x)x dx = x f(x) - \int x f'(x) dx.$$

この部分積分法を用いると対数関数 $\ln x$ の積分公式が導かれます： $\int 1 dx = x$, $\frac{d}{dx} \ln x = \frac{1}{x}$ なので、積分定数を C とおくと、

$$\int \ln x dx = \int (\ln x)1 dx = (\ln x)x - \int \frac{1}{x} x dx = x \ln x - \int 1 dx$$

$$= x \ln x - x + C.$$

(積分公式)

$$\int \ln x dx = x \ln x - x + C \quad (C \text{ は積分定数}).$$

例題 不定積分 $\int \ln(3y+2)dy$ を計算する。

$z = 3y+2$ とおく。 $\frac{dz}{dy} = 3$ より $dy = \frac{1}{3} dz$. よって、積分定数を C_0, C とおくと、

$$\int \ln(3y+2)dy = \int (\ln z) \frac{1}{3} dz = \frac{1}{3} (z \ln z - z) + C_0$$

$$= \frac{1}{3} \{(3y+2) \ln(3y+2) - 3y - 2\} + C_0$$

$$= \left(y + \frac{2}{3}\right) \ln(3y+2) - y + C.$$
 終

問題 7.3.3 不定積分 $\int \ln(4u+7)du$ を計算しなさい。

例題 不定積分 $\int y \ln y dy$ を計算する。

$\int y \ln y dy = \int (\ln y)y dy$ と変形してから部分積分法の公式を適用する。積分定数を略すと $\int y dy = \frac{1}{2}y^2$, また $\frac{d}{dy} \ln y = \frac{1}{y}$ なので、積分定数を C とおくと、

$$\int y \ln y dy = \int (\ln y)y dy = (\ln y) \frac{1}{2}y^2 - \int \frac{1}{2} \frac{1}{y} y^2 dy$$

$$= \frac{y^2}{2} (\ln y) - \frac{1}{2} \int y dy = \frac{y^2}{2} \ln y - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} y^2 + C$$

$$= \frac{y^2}{2} \left(\ln y - \frac{1}{2} \right) + C.$$
 終

問題 7.3.4 不定積分 $\int x^3 \ln x dx$ を計算しなさい。

例題 不定積分 $\int x \sin 3x dx$ を計算する。

【解説】 変数 y を $y = 3x$ とおく。 $\frac{dy}{dx} = 3$ なので $dx = \frac{1}{3} dy$. 積分定数を略すと、

$$\int \sin 3x dx = \int \sin y \frac{1}{3} dy = \frac{1}{3} (-\cos y) = -\frac{1}{3} \cos 3x,$$

$$\int \cos 3x dx = \int \cos y \frac{1}{3} dy = \frac{1}{3} \sin y = \frac{1}{3} \sin 3x.$$

また $\frac{d}{dx}x = 1$ なので、部分積分法により、

$$\int x \sin 3x dx = -\frac{1}{3} x \cos 3x - \left(-\frac{1}{3} \int 1 \cdot \cos 3x dx \right)$$

$$= -\frac{x}{3} \cos 3x + \frac{1}{3} \int \cos 3x dx = -\frac{x}{3} \cos 3x + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \sin 3x + C$$

$$= \frac{1}{9} \sin 3x - \frac{x}{3} \cos 3x + C.$$

ここで C は積分定数である。 終

問題 7.3.5 不定積分 $\int x \cos 5x dx$ を計算しなさい。

問題 7.3.6 不定積分 $\int x e^{\frac{x}{3}} dx$ を計算しなさい。

部分積分法と微分積分の基本定理とを用いて定積分を計算します。

例題 定積分 $\int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx$ を計算する。

まず部分積分法によって不定積分 $\int x \cos x dx$ を計算する。積分定数を C とおくと、

$$\int x \cos x dx = x \sin x - \int \sin x dx = x \sin x - (-\cos x) + C$$

$$= x \sin x + \cos x + C.$$

従って、微分積分の基本定理より、

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx = [x \sin x + \cos x]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2} \sin \frac{\pi}{2} + \cos \pi - (0 \sin 0 + \cos 0)$$

$$= \frac{\pi}{2} - 1.$$
 終

問題 7.3.7 定積分 $\int_{\frac{\pi}{3}}^{\pi} t \sin t dt$ を計算しなさい。

定積分の部分積分法

定理 (定積分の部分積分法) 実数 a, b が属する区間において、関数 f の導関数 f' 及び関数 g は連続であるとする。関数 f, g, G について、

$$\int g(x)dx = G(x) \text{ とすると } \int_a^b f(x)g(x)dx = [f(x)G(x)]_a^b - \int_a^b f'(x)G(x)dx.$$

証明 関数 G について $G(x) = \int g(x)dx$ とする。定理 6.5.2 より

$\frac{d}{dx}G(x) = \frac{d}{dx}\{\int g(x)dx\} = g(x)$. 関数の積の微分公式 (定理 3.3.1) より、

$$\frac{d}{dx}\{f(x)G(x)\} = \frac{d}{dx}f(x) \cdot G(x) + f(x) \frac{d}{dx}G(x) = f'(x)G(x) + f(x)g(x).$$

関数 $f'(x)G(x) + f(x)g(x)$ は連続なので、微分積分の基本定理より、

$$\int_a^b \{f'(x)G(x) + f(x)g(x)\} dx = [f(x)G(x)]_a^b.$$

この等式の左辺は $\int_a^b \{f'(x)G(x) + f(x)g(x)\} dx = \int_a^b f'(x)G(x)dx + \int_a^b f(x)g(x)dx$ なので、

$$\int_a^b f'(x)G(x)dx + \int_a^b f(x)g(x)dx = [f(x)G(x)]_a^b,$$

故に $\int_a^b f(x)g(x)dx = [f(x)G(x)]_a^b - \int_a^b f'(x)G(x)dx$. (証明終り)